

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970400170		
法人名	医旅法人 景雲会		
事業所名	医療法人景雲会 グループホームあずさ		
所在地	〒 406-0014 笛吹市春日居町国府436 電話番号 0553-26-4516		
評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年8月31日(金)

## 【情報提供票より】平成19年7月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤	6人 非常勤 1人 常勤換算 6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	■有( 105,000 ) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有( 100,000 ) □無	有りの場合 償却の有無	□ 有 ■ 無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 780 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年7月1日 現在

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	58 歳	最高	102 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	春日居リハビリテーション病院、雨宮歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年8月31日(金)

併設のリハビリテーション病院の利用者で認知症の場合は、退院後の受け入れ困難が大きく、その必要性からグループホームが開設された。病院に隣接し、協力体制がとりやすく、家族の安心感にも繋がっている。職員は病院の勤務経験者で、最近2年間は異動がなく、安定した職員体制がとられている。利用者との馴染みの関係を深め、ケアの質の向上に繋げている。職員がサービス提供するにあたり、「品良く、明るく、やさしい介護」を旨としている。利用者にはこやかでゆったりとした生活を送っている。地域密着型サービスに位置づけられたこととの関連では、利用者の半数が市外であることや立地条件的にも地域との関わりが難しいこと、管理運営面ではグループホーム単独ではなく、法人全体との関係が大きいこと等、独自の課題もある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今まで2回外部評価を受けており、鍵をかけないケア、介護計画の職員間での共有の仕組み、あずさ便りの作成と送付、など具体的改善につなげられている。評価の意義の理解を職員みんなで確認することができていない。改善項目に対する改善計画も明文化されていない状況がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回外部評価の日程は知っていたが、自己評価に対する取り組みは、計画作成担当者が記入し、職員はそれに目を通したというのが実情である。職員みんなで評価の意義を確認し、自己評価も職員の意見で評価がされるような取り組みを期待したい。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今まで2回運営推進会議が開催されている。家族会等もなかったため、会議の目的や構成の確認がされた。活動報告が主であり、委員に理解を深めてもらう機会になっている。またグループホーム活動への要望、助言、評価について、意見を聴けた機会として活用している。そこでの内容が、具体的に中学生の職場体験の受け入れや、納涼会のボランティアの参加となって実現した。今後は外部評価について議題としてとりあげることや2ヶ月に1回の開催を期待したい。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) あずさ便りを毎月発行し、個人の写真も一緒に郵送している。面会時などに利用者の報告と合わせ、家族から意見や心配ごとなどを意識的に聴くようにしている。面会の機会が少ない場合は、その機会も少なく、それに対する手立てもされていない。書面による個人報告や毎月の金銭納納などを報告に加え、それと合わせて、意見、不安、苦情など家族が気兼ねなく発言し、運営に反映できるような取り組みを期待したい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所として、地域の自治会、老人会などには入っていない。立地条件的にも、地域との関係がとりにくい状況があるが、春日居町にある郷土館で行われる各種展示を観に出かけたり、節分会、バザーなどに参加している。グループホーム側の都合で参加する地域との関わりだけでなく、必要とされる活動にも参加する中で、地域と繋がりがながら、日常的な地域とのつきあいを期待したい。

## 2. 調査報告書

事業所名: グループホームあずさ

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としてのケアの理念は、独自のものをつくりあげている。それは介護、看護に共通のものでもある。グループホーム理念も明示されているが、地域密着型サービスの理念の具体化には至っていない。	○	事業所が実践をつみあげる中で、創り上げられたものに、今回さらに、地域密着型サービスの理念を盛り込んだ理念づくりに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、日々の実践に繋げるため努力はよくされている。	○	理念は単に取り決めたことを文章で現せばよいというものではないので、地域密着型サービスの本質について、学ぶことからはじめていただきたい。事業所としての独自のものをつくりあげる過程が共有にもなるので、日々の実践の振り返りの指標としても活用してほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として、自治会、老人会などには入っていないが、春日居町にある郷土館で行われる各種展示を観に出かけたり、節分会、バザーなどに参加している。中学生の職場体験の受け入れや日舞のボランティアとの交流もある。	○	グループホーム側の都合で参加する地域との関わりだけでなく、地域と繋がりがながら利用者の日常の暮らしを支援する取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について、実施することは職員に伝えられているが、意義を理解するには至っていない。また、評価項目についても、計画作成担当者がそれぞれ記入したものに職員は目を通しているのが実情である。	○	外部評価が一つのきっかけになり、具体的に改善につながった事項もある。評価を活用して具体的な改善に繋げるためには改善計画が必然である。目に見える形の計画書作りからはじめていただくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は運営推進会議が2回開催されている。ボランティアの受け入れなど、そこでの意見が活かされている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホーム側の報告と合わせ、サービス向上につながる場として活用を期待したい。また、自己評価や外部評価についても報告し、ホームとして取り組むべき課題等について検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人としては、担当者を決め、市町村との連携を積極的に図っている。グループホームとしては、運営推進会議を通じた連携が主であるが、ボランティアの受け入れを実現するなど取り組みの前進がある。	○	年間2回の運営推進会議での関わりはあるが、事業所から、市町村担当者へ積極的に情報提供し、日常的に行き来する関係にはなっていない。グループホームとしての連携の取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回”あずさ便り”とあわせ、個別の写真を同封し、郵送している。また、面会時に個人の状況、暮らしぶり、健康状態を報告している。	○	家族が報告で期待するのは、利用者の個別の状況報告である。金銭出納とあわせ、書面での個別報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理についての文書による説明はされている。また、家族からの意見も、来所された折りに聴くように努めている。	○	面会が少ない家族からの意見を反映させるためには、報告とあわせて、不安や希望などより意見をきくための方策がより求められる。利用者の半数が市外ということから困難もあるが、積極的な働きかけに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にすることが、法人内で了解が得られており、2年間、固定した職員体制が確保されている。今回、1名が退職するが、数ヶ月前から利用者にも伝え後任も決定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の職員向けの研修機会が多くあり、毎月参加できる状況もある。県内で実施される講座や研修に参加している。	○	研修機会をよく確保されている。職員の異動が少なく、ケアの質の向上の視点からみると、意図的な研修計画を持つことや、職員自身が日々の実践の中で、自らの成長が確認できるような研修と実践をつなげる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修、交流会に参加している。また、法人内のグループホームの職員との交流会や、相互訪問などの活動がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、本人、家族に見学をしてもらっている。施設利用をしている場合は、デイサービス、老人保健施設、ショートステイなどに職員が訪問している。体験利用の実績もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、共に過ごしている。そのなかで、料理の仕方を教わったり、利用者の人生からの教訓(忍耐力、粘り強さ)を、日常生活の送り方などから学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント用紙を活用しながら、一人ひとりの思いや生活状況を把握することにつとめている。本人の表情、動作等から、どうしたいのかを察する等に注意深く観察し、言葉かけしてゆっくり待つて思いを受け止めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者には担当の職員も決まっており、計画作成担当者を中心に、月1回定期的にユニットごとにカンファレンスを行い、ケアプランの検討がされている。家族へ説明し、同意が得られた場合はサインをもらっている。	○	ケアプランの検討にあたっては、個別性を考慮し、利用者本位を基本にたてられているが、本人や家族の意見を反映させること、話し合っ作りあげてを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回定期的にユニットごとにカンファレンスを行い、ケアプランの見直しがされている、また、変更がある場合も、個々の重要な記録が一目で把握できる様式(カードックス)を用いて職員は変更内容の確認もでき、ケア、記録に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調を崩した場合など、医師の往診がすぐに対応してもらえることや看護職員が配置されていることから、点滴注射などを行いながら、入院せずに、グループホームでの生活が継続できるような支援がされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接のリハビリテーション病院との協力体制が得られる状況から、家族の希望で、かかりつけ医を変更する機会が多い。専門性が求められる場合や今までの経過で変わらない方がよい場合は継続をすすめている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係わる説明書」があり、入所時から家族に文書で説明がされている。利用者の3割の家族とは終末期のあり方について話し合いができています。グループホームとしてターミナルケアの経験事例はない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と職員のかかわりや会話から、一人ひとりを尊重した支援がされている。合同カンファレンスの折などに個人情報保護について確認がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員への聞き取りの中で、「その方の動きを見ていると何を望んでいるのかがわかるので、その方に添うようにしている。」と話されていた。利用者のペースを大切にした支援がされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も希望を取り入れたり、買い物、調理、片づけなど、利用者と職員と一緒にとりにくんでいる。食事を自力摂取できない利用者には、職員が横に座り、ゆったりと時間をかけて丁寧に支援している。	○	職員は利用者の食事や片付けが一段落してから、食事をしていた。各自弁当持参である。食事が楽しみになるためには、食事に関する行動(献立作り一買い物一準備一食事一片付け)と一緒に行う意義と、職員が同じ物を食べるための管理、運営面の検討を特に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を活用し、洗髪も確認している。準備から自分でできる利用者は、毎日気に入った時間に入浴していた。また、リハビリ病院の機械浴を利用して入浴したり、不安がある利用者には、家族(娘)の協力を得るなどの、入浴の支援がされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除分担、調理、洗濯、洗濯ものをたたむ、お茶くばり、テーブル拭き、などの役割や場面作りが工夫されている。また、習字、早口ことば、合唱、カレンダー作りなど楽しみと合わせ気張らしもできる支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩も天候にあわせ、週2～3日から毎日と、行われている。買い物も週1回定期的に出かけている。	○	買い物も週1回のもまとめ買いに利用者が同伴するという形や病院の売店での日用品の買い物という、固定化しない支援を期待したい。利用者の希望の場所や、気のあった同士のお出かけ等、車椅子利用者の積極的な外出支援にも期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の入口ドアはロック式であるが、ガムテープや細木を活用して、自動的に閉鎖するのを防止しており、日中は開放されている。また、居間からリハビリガーデンに出るガラス窓もカギを掛けず、洗濯物を干したり、鉢の水やりなど出入りができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接のリハビリテーション病院と合同で年2回、訓練を実施している。協力体制も得られる状況もある。ただし、利用者は参加していない。また防災備品の備蓄もされていない。	○	グループホームとしての防災対策について、マニュアルの検討、避難路の確認、協力体制、防災備品の備蓄など具体的に検討し、利用者とともに訓練できるように取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は確実に把握されており、食事摂取が自力で十分とれない場合は、職員がマンツーマンで介助している。水分摂取も日課の中に取り入れ、食事以外にも確実にとれるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館空調が行き届き、音、光も快適である。共用空間は、季節感を取り入れた工作の作品、行事の時の楽しい写真等が飾られている。居間は、テーブルと椅子だけでなく、座面の高さの異なるソファやクッションなども配置され、テレビを見る時も、思い思いの場所を選んでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	研修施設を改修してグループホームに活用しているため、ハード面でも、天井が高かったり、床がリニューアルであったり、窓も居室によって開かないなど、居心地よく過ごせるための、居室の工夫がより求められる。居室による差があり、その人らしさを感じられるような馴染みのものを感じられない居室も見られた。	○	家族の協力なしには、できないことであるので、宿泊していただいて一緒に過ごしていただくことや、必要性を粘り強く説明し、協力を得よう努力していただき、居心地よく過ごせる居室の工夫について、継続して取り組みを期待したい。